

# 「市立札幌病院 地域連携センター」が 目指すもの

副院長  
地域連携センター長  
富樫 正樹



## — Part 2 —

2011年も残り僅かとなってまいりました。3月11日の東日本大震災はかつて無いほどの被害をもたらした多くの尊い命が犠牲となりました。また、同時に発生した福島第一原発の原子炉事故は周囲に甚大な被害と風評被害をもたらした。8ヶ月経過した現在でも多くの避難住民を生み出してしまいました。放射能の影響は数十年続くといわれております。この震災で犠牲になられた方々には深甚なる哀悼の意を表すとともに、一日も早い復興を願っております。

このような中ではありますが、市立札幌病院では4月より「循環器センター」と「脳神経センター」を開設し、従来との関係診療科の枠組みを越えてより高度な医療を提供できる体制を組みました。本号ではこれらセンターを中心に紹介させていただきます。

また、現在本院南側に建築中の精神医療センター（仮称）で2012年4月には精神科診療を開始します。

ここでは救命センターと連携した1)精神科救急と2)精神科疾患をもつ患者さんの身体疾患の治療の二つに特化した精神科医療を提供可能となります。どうぞ、ご利用いただきたく思います。

さて、市立札幌病院地域連携センターが発足して3年半が経過しました。この間600以上もの医療機関と連携を結ばせていただきました。センターでは地域医療機関に当院の診療科の特徴や最新の医療機器の紹介などに広報誌「かざぐるま」を発刊して参りました。

その第一号で私は、『地域連携に最も大事なことは、お互いの医療機関が信頼できること（安心して患者を紹介しあえること＝受け入れること）、患者さんが納得・理解できることの2つであると感じております。つまり、医療機関同士、また医療者と患者の「相互信頼関係」が重要と思います。その「信頼関係の構築」の仲介が地域連携センターの仕事であると考えています』と書かせていただきましたが・・・、果たして皆様のお役に立っているのでしょうか？ 私たちの一方的な目線で考えているのではないのか？ 地域の医療機関が市立病院に求めていることは何なのか？

そこで地域の先生方にはお手数をおかけしましたがアンケート用紙を送付させていただき多数の諸先生より、市立病院に対する忌憚りの無いご意見・叱咤をお寄せいただきました。この結果は集計の上回答いただいた医療機関の先生に報告させていただきます。また、いただいたご意見を参考にさせていただき、改善すべき点は改善し、より木目細かな、より良い連携関係を構築すべく努力する所存でございます。今後とも市立札幌病院地域連携センターをよろしく願いいたします。

